

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】平成27年1月15日(2015.1.15)

【公開番号】特開2013-149545(P2013-149545A)

【公開日】平成25年8月1日(2013.8.1)

【年通号数】公開・登録公報2013-041

【出願番号】特願2012-10692(P2012-10692)

【国際特許分類】

H 01 H 33/664 (2006.01)

H 01 H 33/662 (2006.01)

【F I】

H 01 H 33/664 C

H 01 H 33/662 F

H 01 H 33/664 D

【手続補正書】

【提出日】平成26年11月21日(2014.11.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

中央部から外周縁部に向かって複数の溝が形成され、絶縁容器を貫通した固定電極棒の内端部に装着された固定電極、及び中央部から外周縁部に向かって複数の溝が形成され、上記絶縁容器を出入り自在に貫通した可動電極棒の内端部に装着されて上記固定電極と離接する可動電極を有する真空バルブにおいて、

上記固定電極と上記固定電極棒間、及び上記可動電極と上記可動電極棒間は、それぞれろう付け接合すると共に、上記固定電極と可動電極、又はこれらの電極に対向して設けられた部材には、上記溝の内端部が位置する箇所に、余剰溶融ろう材を流し込む凹部を設けたことを特徴とする真空バルブ。

【請求項2】

上記凹部は、電極棒、電極のスペーサー、及び電極の補強板のうちいずれかの部材、又は上記電極に設けたことを特徴とする請求項1に記載の真空バルブ。

【請求項3】

上記凹部は、電極棒の外径よりも内側に配置したことを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の真空バルブ。

【請求項4】

上記凹部は、貫通孔又は有底穴で形成したことを特徴とする請求項1～請求項3のいずれか1項に記載の真空バルブ。

【請求項5】

上記凹部は、リング状、螺旋状、直線状の有底溝のうちいずれかの有底溝で形成したことを特徴とする請求項1～請求項3のいずれか1項に記載の真空バルブ。

【請求項6】

上記貫通孔及び上記有底穴は、上記溝の内端部の溝幅よりも大きくしたことを特徴とする請求項4に記載の真空バルブ。

【請求項7】

上記有底溝は、上記溝の内端部の溝幅よりも大きくしたことを特徴とする請求項5に記

載の真空バルブ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

この発明に係る真空バルブは、中央部から外周縁部に向かって複数の溝が形成され、絶縁容器を貫通した固定電極棒の内端部に装着された固定電極、及び中央部から外周縁部に向かって複数の溝が形成され、上記絶縁容器を出入り自在に貫通した可動電極棒の内端部に装着されて上記固定電極と離接する可動電極を有する真空バルブにおいて、上記固定電極と上記固定電極棒間、及び上記可動電極と上記可動電極棒間は、それぞれろう付け接合すると共に、上記固定電極と可動電極、又はこれらの電極に対向して設けられた部材には、上記溝の内端部（電極の溝奥部）が位置する箇所に余剰溶融ろう材を流し込む凹部を設けたものである。